

# 年間を5つのステージに分けた組織的な授業改善の取組

長沼町立長沼小学校 学級数20 (校長 小玉 剛)

## I 実践テーマの趣旨

本校では、今年度、町内の5校が統合し、新たなスタートを切ったため、目指す授業スタイルの徹底を課題として、1年間を5つのステージに分け、短期間での検証と改善を繰り返しながら、全教職員で授業改善を図ってきた。

## II 実践の概要

### 1 取組のねらいを明確にしたステージの設定

学期の区切りとは別に、課題解決に向けて、1年間を5つのステージに分け、全教職員でステージごとの取組のねらいと取組を共有し、授業実践することで、取組の成果と課題を明らかにしつつ、ステージの連続性を生かして改善を図っている。

ステージ	時期	ねらい
第1ステージ	4月	「目標、方向性、取組の共通認識」
第2ステージ	5～7月	「やってみよう」
第3ステージ	8、9月	「取組を見つめ直そう」
第4ステージ	10～12月	「徹底と改善と見通し」
第5ステージ	1～3月	「次のステップへ」

【各ステージの時期と取組のねらい】

### 2 各ステージにおけるねらいと取組

#### (1) 第1ステージ「目標、方向性、取組の共通認識」

全国学力・学習状況調査やNRT検査等で明らかになった課題の解決に向け、1単位時間の中に「自分の考えをもつ時間」「定着状況を確認する問題」「振り返る活動」を位置付けた「長小スタイル」と「学習のための10の約束」について、例示して全教職員で共通理解を図った。

#### (2) 第2ステージ「やってみよう」

共通理解を図った授業スタイルでの授業を全教職員が実践し、管理職及び研究部の授業参観により、改善策を提示することで、全教職員が目指す授業スタイルでの授業改善を行えるようにした。

#### (3) 第3ステージ「取組を見つめ直そう」

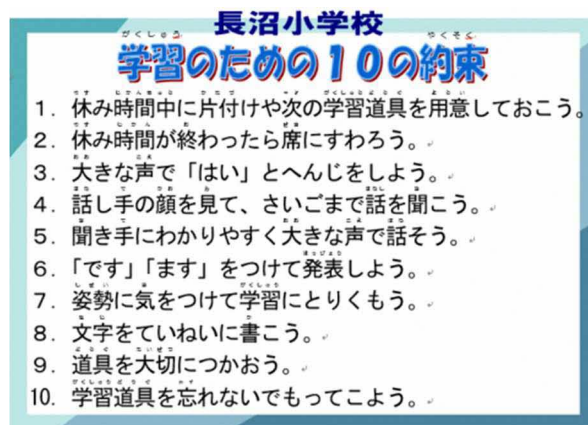
「授業に関する児童アンケート」の分析結果を授業改善の方策に取り入れ、学習者の側に立った授業改善を図ることができるようにした。

#### (4) 第4ステージ「徹底と改善と見通し」

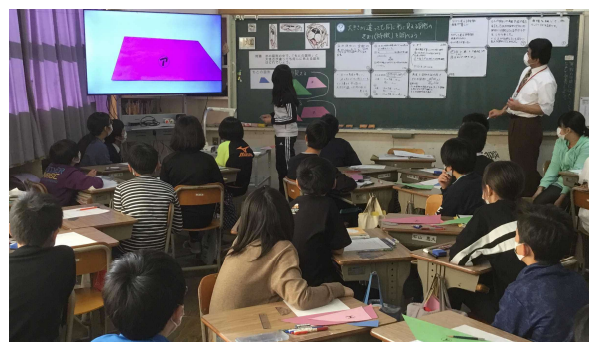
全学級が研究授業を行い、授業参観チェックシートを用いて、授業スタイルの定着状況を全教職員で確認し、目指す授業スタイルの定着と深化を図っている。

#### (5) 第5ステージ「次のステップへ」

学校評価等の結果から、今年度の成果と課題について明確にし、全教職員で次年度の授業改善の重点について共通理解を図っている。



【学習のための10の約束】



【第4ステージでの第6学年の授業の様子】

## III 実践の成果と課題

- 年間を5つのステージに分け、ねらいと取組を明確にしたことで、全教職員が、いつまでに何に取り組みればよいか理解でき、共通の取組を通して、教職員の授業改善の意識を高めることができた。
- 臨時休業等により、目指す授業スタイルに基づく提案授業の実施が遅くなり、授業スタイルの定着まで時間がかかったことから、年度始めに模擬授業を実施するなど共通理解を図る方法を工夫する必要がある。

# 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

恵庭市立柏陽中学校 学級数 11 (校長 森岡 理恵)

## I テーマの趣旨

本校は、「ねばり強く学び、未来を切り拓く確かな学力の育成～思考力・表現力・判断力を求め、対話的な深い学びの授業作りを目指して～」を研究主題に掲げ、生徒の学習意欲を高めるとともに、思考することの楽しさに気付かせ、他者の意見から自らの考えを深め、その考えを活用しようとする資質・能力を育むために、平成30年度から3か年の継続研究を進めてきた。

特に、「教育ファシリテーション」を活用した授業の実践と課題設定と発問の工夫に重点を置いて研究を推進し、石狩管内教育研究会の指定校として、学校課題研究発表会において成果を発信した。

## II 実践の概要

### (1) 実践の基盤となった取組

平成26年度から同一校区である恵庭市立若草小学校と小中で連携した教育を推進している。9年間を見通した指導を行うため、「生徒の学習スタイル」と「教師の授業スタンダード」を確立した。また、平成27年度からは、恵庭市教育委員会の後援を受けて、コミュニケーション講座担当の講師による「ヒューマン・コミュニケーション講座」等を実践している。



【講座の様子】

### (2) 「教育ファシリテーション」を活用した授業実践

生徒の話合い活動をより深いものにするために、「教育ファシリテーションの活用」と「ヒューマン・コミュニケーション講座」における互いを認め合う集団づくりを基盤とした授業実践を進めるとともに、教職員の研修の機会を工夫し、実践を積み重ねた。

実践	内容
教職員向けの理論研修会の実施	研修を重ねる中で「教育ファシリテーション」を活用した授業実践の共通理解を図った。思考を深める質問方法や、まとめの場面で用いるフレームワーク(分析ツール)を実際に活用しながら研修を進めた。
ファシリテーター養成講習会の実施	ファシリテーターの養成やグラフィックライターの養成を目的として講習会を行い、実践練習を重ねた。
恵庭市民とのワークショップを開催	「個」→「発散」→「収束」→「合意形成」という教育ファシリテーションを活用した話合いの流れを体験した。さらに、医療現場などで用いられているグラフィックレコーディングの基礎を学んだ。
校内授業研究	全教員が研究授業を行い、研鑽を積んだ。また、日常的に教育ファシリテーションを活用した話合い活動を単元計画に位置付け、複数の教科で実践を積み重ねた。



### (3) 課題設定と発問の工夫

授業において、生徒が自ら進んで課題解決に向かうことができるよう、学習意欲を高める魅力的な学習課題を設定するとともに、生徒の主体的な思考を促すために発問を工夫した。

## III 成果と課題

- 「教育ファシリテーション」を活用しつつ、学習課題や発問といった授業の本質と向き合いながら実践を推進することにより、言語活動の質を高めることができた。
- 全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査や学校評価における生徒アンケートにおいて、「主体的・対話的に学び、話合い活動を通じて深い学びを得ることができた」と実感している生徒の割合が平成30年度及び令和元年度と比べ増加した。
- 教科の特性を踏まえた対話型授業の構築や単元の指導計画の工夫、生徒の表現する力の育成に向けた取組を推進する必要がある。



# 主体的（S）・対話的（T）で深い学び（F）の学習指導の在り方 ～一人一人が考えを高め合う学習活動を通して～ 新冠町立新冠中学校 学級数9（校長 松田 拓美）

## I はじめに

本校は、全教育活動において「思考ツール」などを使い、生徒自らが判断・決定し自分の言葉で表現できる生徒の育成に取り組んできたが、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果から「学習内容が定着に至っていない」との状況が見て取れた。そこで、より学習内容の定着を図るための質の高い授業を目指し、S・T・Fの学習指導の在り方を研究主題に設定した。

## II 実践概要

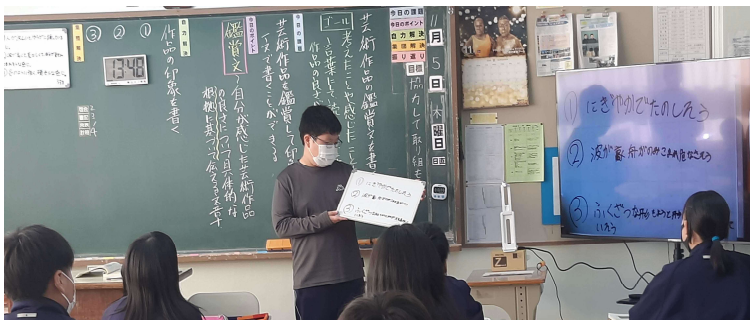
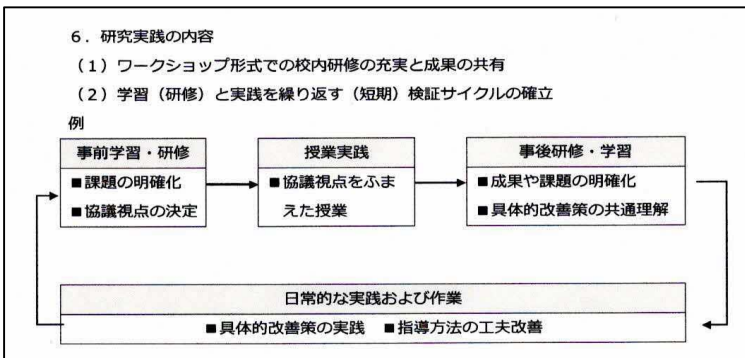
### 1 1人1回以上の授業公開（授業公開週間）の設定

年間3回の授業公開週間を設け、互いの授業を参観し合う体制を整えた。授業者は略案及び「授業の見所（時間帯）」などを作成した。

### 2 ワークショップ型の校内研修で成果と課題の共有

授業後の話し合いは、KJ法、短冊方式、マトリックス法等のワークショップ型で行い、成果と課題を明らかにし全体で共有した。

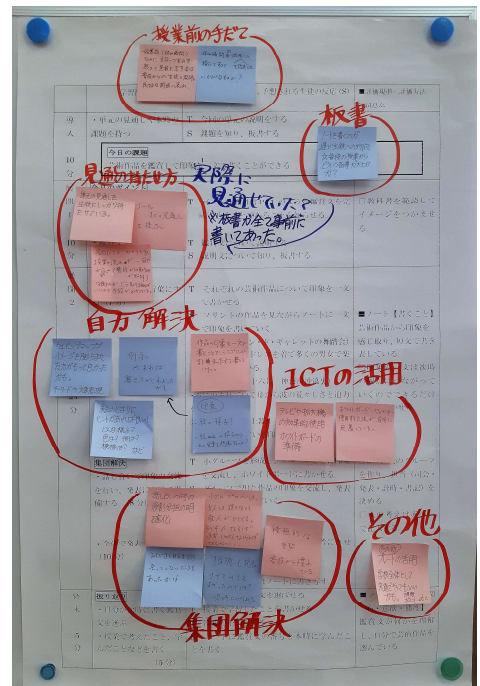
### 3 研修と実践を短期的に繰り返す検証サイクルの確立



## III 実践の成果と課題

- 研修の形態を改善したことで、教師一人一人の授業改善の意識がより高まるとともに、成果と課題がより明確になり、具体的な改善策を共有することができた。
- 各教科において3つの視点で分けた生徒に育みたい資質・能力を出発点として、単元全体や題材のまとまりの中で、主体的・対話的で深い学びを実現するための単元の指導計画及び1単位時間の授業を工夫する必要がある。

社会科 学習指導案（略案）	
令和元年 11月 14日（木） / 3年 A・B組 / 授業者：佐藤 公亮	
1. 単元名	消費生活と市場経済
2. 研究主題と の関わり (本時の 見どころ)	本時では、流通のしくみと自分たちの生活との関連・影響について考えることを目的としている。 「思考ツール」はイメージマップを使用し、コンビニエンスストアの利便性と問題点を考え、より良い消費生活について思考を深める活動をする。
※参観者は付箋を使用、参観の視点…「思考ツールの活用について」「生徒の様子や改善について」	
3. 本時の展開（大まかな授業の流れ）	
①前時の確認	
②経済活動についての概要を説明	
③本時の課題確認 「流通と自分たちの生活との関わりは何か」	
④流通のしくみ・近年の流通の発展について全体で確認	
⑤コンビニの利便性と問題点を考える	
「思考ツール」活用の見どころ時間 <b>9時00分ごろ B組</b>	「思考ツール」活用の見どころ時間 <b>10時00分ごろ A組</b>
⑥まとめ	
※以下は授業後に、記入。	
4. 授業の 研究主題に 関わる振り返り	活動としては思考ツールを用いることで、課題に取り組みやすく、また発表のための資料として活用することができた。反省として、「やりっぱなし」で終わってしまったところがあり、生徒が考えたことについて全体で共有し、消費生活の改善に向けた方策など、もっと深められる要素があった。思考ツールはあくまで手段であり、それを用いて何を考えさせるか指導計画を立てる必要がある。



# 『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善に関する実践

七飯町立大中山中学校 学級数 12 (校長 横山 佳彦)

## I 研究主題

「自主的に行動し、最後まで粘り強く行動できる生徒の育成」～言語活動と課題解決を軸にした授業改善を通して～

## II 研究内容の改善

本校は、渡島教育局の独自事業である「授業改善プロジェクト」の指定を受け、言語活動の充実と問題解決的な学習の展開を軸に、「見方・考え方」を働かせた「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を進めてきた。

- ・各教科に共通した言語活動の充実
- ・「課題解決」（自力解決・集団解決）の場の充実
- 「思考力・判断力・表現力」を高める指導と評価の在り方
- 単元（題材）を見通した指導計画及び評価規準の作成
- 「見方・考え方」を踏まえた「深い学び」の実現
- 問題解決的な学習を軸とした「主体的・対話的な学び」の実現

- 教育局の関わり
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の促進に向けた指導助言
  - 指導と評価の一体化に係る校内研修及び授業者への個別の指導助言
  - 指導と評価の一体化を図る単元づくりに係る指導助言

## III 研究内容（数学科と保健体育科の実践）

### 1 数学科の実践 第1学年 単元名「比例と反比例」

(1) 本時の目標（16時間目／21時間扱い）

- 反比例の図、表、式及びグラフの相互関係について、説明したり、考えを表現したりできる。

(2) 数学科における問題提示の工夫と課題解決の手立て

X	-5	-4	-1	0	1	$\frac{3}{2}$	4
y	$-\frac{6}{5}$	-1	0	0	4	4	5

自ら問題を見だし、解決するための構想につながるよう、「問題」の提示を工夫する。

内容のまとまりごとに数学的活動の過程を振り返り、次時への見通しをもつ。

#### 小単元1「関数」 ※教科書（P106～P109）プリント（①、②）

この小単元で、どんなことがわかりましたか(何ができるようになりましたか)

- ・変数、関数、変域の意味がわかりました。
- ・1以上10以下、1より大きい、10未満などの表し方がわかった。  
例)  $1 \leq x < 10$  というふうに表せるようになった。
- ・yはxの関数ということもわかった。  
yはxの関数であるものと判断して、○×をつけたりすることが出来るようになった。
- ・数直線も表すこともできた。

もっと知りたいこと・疑問など

- ・関数、比例、反比例の他に何がわかるのかを知りたい。
- ・関数の小単元は、二、三年生でもっと数学の重要な語句が出てくるのか

【振り返りの場面における生徒のノート記述】

### 2 保健体育科の実践 第1学年 単元名「器械運動（マット運動）」

(1) 本時の目標（7時間目／10時間扱い）

これまで学習した技の中から自己の技能に応じた技を選び、それらを組み合わせて連続技を行うことができる。

(2) 保健体育科における具体的な手立て

単元全体を見通して、1単位時間で育む資質・能力を明確にし、指導と評価の一体化を図る。

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	詳細・指導のポイント
0	オリエンテーション	用具準備・出欠確認・健康観察・本時のねらいの確認									①オリエンテーションでは、単元の目標、授業の流れ、準備の手順及びグループ練習の方法を理解する。 ②～⑤では、基本技、発展技を学習し、それぞれの技のポイントを押さえる。 ⑥～⑦では、連続技の完成に向けてグループで練習をする。連続技は、全部で5種類設定し、「技の難易度表」を基に、自己の技能に応じて技を選択する。
10		種目練習①回転系	種目練習②回転系	種目練習③回転系	種目練習④巧技系	連続技を完成させよう	連続技練習	技能テスト	二年生に向けて		
20											
30											
40											
50											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価方法
関		①			②		②				観察
思		③		③			④				観察・学習カード
技			⑤				⑥		⑤⑥		観察・技能テスト
知					⑦					⑦	観察・学習カード・筆記テスト
関	①仲間と協力し、安全に気を配りながら、意欲的に授業に取り組むことができる。										
思	②互いに教え合い、補助し合うなど、仲間の活動を援助しようとしている。										
技	③仲間の良い点や改善点を伝えることで、互いに技能を高め合うことができる。										
知	④自己の技能に応じた技を選択し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。										
	⑤基本的な技を安定して滑らかに行うことができる。										
	⑥基本的な技と自己の技能に応じた発展的な技を選び、それらを組み合わせて行うことができる。(連続技)										
	⑦器械運動の特性、成り立ち、技の名称、行い方を理解できる。										

【指導と評価の一体化を図るための単元計画の例】

## III 実践の成果 (○) と課題 (●)

○ 新学習指導要領の趣旨を校内で共有するとともに、管内の学校に対し公開研究会を実施したことで、外部から授業改善の助言を得て、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することができた。

● 授業改善の視点を授業で具現化し共有化することができるよう、今後も学校全体で授業改善を積み重ねる必要がある。